

○事業所名	こども発達支援センターにじっこ飯塚（西徳前教室 放デイ）		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数) 29名
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスを2つに分け、特性に応じたクラス編成を行い、支援の内容を具体的に提供できるように環境を整えていること。 ・支援の内容に応じて、合同で取り組んだり、公園に出かけたりして、クラスの人間関係づくりを行い、別のクラスの子に関心を持って生活できるようなしていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2つにクラスとも10人以下の編成であるが、一方を少数集中型の編成にし、一方を日に応じて10人強の集団型の編成で支援に取り組んでいる。 ・他への関心を持たせるために、帰りの会の際は合同で行ったり、一緒に映画を見たり同じ運動をしたりして、同じ空間で生活できる喜びを育てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス個々の生活の仕方をさらに身につけられるように、子ども達の心に届くような声掛けや寄り添い方を全職員で常に頭に入れて、子ども達に接することを大切にしている。 ・2つのクラスの交流を現在以上に行い、一人ひとりの違いを認め合える支援のあり方を探っていきたい。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールを意識した見通しが持てる環境を提供し、どの子も一日の活動が分かりやすく、主体的に生活できる力を育てていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動室に入ってきたら、一日のスケジュールや自分の座る場所がどこにあるのか主体的に判断できるように工夫している。 ・活動を誰とするのか、担当する先生は誰なのか自他との関わりを認識できるように配慮している。 ・思うように言葉にならない時は、何をどうしたいのか子どもから分かるように指し示しボードを使って、意思表示ができるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で苦手なことも挑戦出来るようにスタッフがサポートしながら様々な環境に対応できるように支援していきたい。 ・スケジュールに従って行動化が難しい子ども達には、スケジュールのどこまでできているか、見える化を推進し、活動へつないで行けるようにしたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の特性に合わせた課題提供を行い、子ども達自らが活動に熱中し、楽しみながら取り組んでいること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1つのクラスは、子ども達に身につけてもらいたい力を担当者を中心に取り組みを進めている。日々の課題では微細運動や粗大運動、ワーキングメモリ強化課題、製作（創造力）などを幅広くアプローチしている。 ・もう1つのクラスはグループごとに活動の内容を変えて、活動に変化をつけて取り組みを行っている。次にする活動はローテーションでちがう課題ができるように工夫している。 ・活動の内容もその子の進捗状況に応じて、さらに上の課題に挑戦できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・微細運動・粗大運動・ワーキングメモリは、子ども達の発達と学習を支える3つの柱と言われている。 ・そのため、子ども達に提供する課題の種類を増やすことは、楽しみを増やすことだけでなく、発達を大きく促していくことにつながっていく活動への導きたい。 ・繰り返し繰り返し行うことで、活動のねらいを少しずつ獲得できるようにゆっくりとした活動に取り組んでいきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・個別対応する子どもが多く、職員一人が担当する人数も多く、十分な支援ができにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特性の強い児童も多数抱えており、個別での課題の必要性を感じているものの、職員配置や部屋数が足りず実施が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて施設設備の改善を図っていく。児童の特性や障害の程度によって、職員の配置基準を見直してほしい。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・個の多様性を理解するために、一人ひとりの職員に障がい児事業所としての研修を行っているが、子ども達への支援のあり方や保護者への接し方などが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいを持つ親の気持ちを考え切れず、現象面での報告に終始し、本来求められる保護者の期待に応えるという意識が不足していた。 ・保護者に子どもの状況があるべき支援とは反対に現象面を伝えたことが、育てることを共有しているという誤解につながってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいを持つ子ども達の支援のあり方は今後研修を通して、一人ひとりの職員が同じ立場でどの子も支援していけるよう取り組みます。 ・保護者と育てることの大切さを共有できるように、言葉遣いに気をつけ、心を開いて話せるように接していきます。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日 令和8年4月20日					
子ども発達支援センターにじっこ飯塚(西徳前教室 放デイ)		保護者数	回収数	回収率	利用児童数	回収数 29名	
		32名	29名	90.6%	32名		
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	7	1	0	もう少し広い方が活動しやすいように感じます。	限られたスペースを広げることは難しいので、支援の内容を広さに応じて活動ができるように工夫していきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	20	1	1	5		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	24	1	0	2		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	23	2	1	1		
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	25	1	1	0	理解はして頂いていますが、十分ではない。	子ども一人ひとりの特性を理解し、その子に応じた支援に取り組み、職員の専門性を高めていきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	23	2	0	2		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	25	2	0	0		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	24	2	0	1		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	25	2	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	25	0	0	2		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	10	3	4	10		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	27	0	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	25	2	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	7	5	5		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	25	1	1	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	2	3	1		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	25	0	1	1	先生によって違いますが、出来なかったことだけを報告してくる方がいます。その方が担当に当たるのが嫌で、お迎えが億劫になります。もちろんほめてくれる先生が大半です。	保護者の苦しい思いを感じられなかったことを猛反省し、子ども達の支援の方法を再度全職員で話し合い、保護者の方から、安心してお子様をお預けできるようになっていきます。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	10	7	6	4			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19	4	1	3		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	23	3	1	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	23	1	0	3		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	26	1	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20	2	0	5		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	24	1	0	2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	24	0	1	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	25	0	1	0		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	25	2	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	20	7	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	24	1	2	0		

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	こども発達支援センターにじっこ飯塚(西徳前教室 放デイ)		職員数	10名	提出数	10名	提出率	100%	公表日	令和8年4月20日
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点				
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	4			児童の特性や学年を考慮しても少し広さがほしい。基本的なスペースは確保しているが、一つ一つのスペースが狭い。			
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	2			基準は満たしているが、子どもの特性を考えると、現在の人員は少ないので、増員してほしい。				
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	2	各部屋の名称や活動内容が掲示してあるので、わかりやすい。		特性に応じた環境が整っていないので、部屋数を増やす工夫が必要。				
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	0	毎日の業務の終わりに清掃や消毒の徹底を行っているため、継続していく。						
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	1	限られた降雨間の中で、部屋を分けて活動に取り組んでいる。		クールダウン室が1つしかないため、もう1つ増やす工夫が必要。				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	1	常にPDCAを意識した取り組みを行っている。					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1			保護者評価の結果の内容を受け止め、今後の職員の資質向上に努めていかなくてはならない。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	朝礼や職員会議で職員の意見の集約を図り、事業所運営に努めていく。					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	2	今年から第三者による外部評価の実施ができるようになり、外部からの表をを真摯に受け止めていく機会としたい。					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	0	月1回以上職員向け研修、りあん全体の研修・各種委員会研修など研修の充実を今後とも継続させていく。					
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	0	HP上に掲載している。		保護者にHP上に掲載していることを周知できる広報活動に取り組む。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10	0	毎年個別にアセスメントを行い、アセスメントから得た情報を個別支援計画に反映している。					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	0	個別支援計画は全員で全職員で確認している。		今後個別支援計画にの確認の仕方を充実させていく必要がある。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	0						
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	0	インフォーマルなアセスメント(連絡帳・生活ケア記録・アセスメント・個別支援計画・モニタリング・担会記録)をHUGに記載することで、全職員が確認できるようにしている。					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	0						

な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	0		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	0		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10	0	個別と集団と組み合わせた活動を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	1	終礼は勤務時間の都合上、難しいが、支援途中でも交換できる情報は常に共有できるようにしている。	終礼はできていない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	0	HUGを用いて記録の徹底を図り、支援の改善に生かしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	0	個別支援計画の進捗状況をモニタリングを通して、達成・一部達成・継続の状況把握に努めている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	10	0		放課後は難しいので、休校日には組み合わせをした活動を考えている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10	0	子ども達がやってみようことに耳を傾けて、その実現のための取り組みを実行している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	0	担会には児発管・担当職員を中心に参加して、担会が子ども中心の話し合いになれるようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	1	受診後、服薬等変更がある際は確認している。にじっこ、飯塚と情報共有を図りながら、受け入れ等を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10	0	毎日下校時間を確認してミスがないように努めている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	10	0	就学前に保護者や関係者と話し合いの場を設け、スムーズに移行できるようにしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	8		対象となる児童がいない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイザーや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	8		地域としての中核的立場を自覚し、センターの機能を高めるために、スーパーバイザー等の招聘をお願いしたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	4	児童クラブとの交流はないが、地域等の行事に参加し関わる機会がある。 地域の子ども達と一緒に遊ぶ機会がある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	3	担当等の職員が参加している。	自立支援協議会や飯塚圏域相談支援センターとの関わりを深めていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	0	送迎時や連絡帳でこどもの様子は伝えている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	7		ペアレントトレーニングは行っていないが、保護者からの相談があった場合には、ゆっくり聞く時間を設けている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	0	契約時、書面と口頭で説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	0		

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10	0	子育てに悩みを持つ保護者に対して、その都度アドバイスを行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	5	父母の会の活動は行えていないが、秋まあ釣りで保護者やきょうだい児も参加し交流する場を設けている。	父母の会や保護者会の開催を保護者の意見等も踏まえながら、開催できるようにしていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	0	迅速に対応できるように、体制は整えている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10	0		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	5		本年度は会社全体の秋祭りで、地域の方の招待ができなかった。次年度は、事業所で開催する秋祭りには、地域の方を招待した取り組みを行っていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	1		保護者に周知できる方法を検討していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	0	自然災害や感染症流行のための対応を話し合っている。避難訓練も毎年2回以上実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10	0		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	7		対象児童がいない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	0		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	0	報告しやすい環境を作り、記録し再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10	0	虐待防止研修会を開催して、職員の虐待に対する意識を高めている。	職員の意識向上と法令遵守の取り組みを今後とも強化していく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10	0	身体拘束禁止研修会を開催して、身体拘束三原則の厳守と保護者等への説明の徹底を身につけられるようにした。	職員の意識向上と法令遵守の取り組みを今後とも強化していく。	